2020.10.13（火） 豊岡地域

会場：本庁舎　大会議室

地域住民対象

小中学校のあり方

意 見 交 換 会

豊岡市教育委員会

小さな世界都市
-Local & Global City-
TOYOOKA

次　第

1. あいさつ
2. 小中学校のあり方についての検討
3. 児童生徒数の推移と複式学級
4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）
5. 保護者の意見（保護者向け意見交換会から）
6. 意見交換
7. アンケート

1. あいさつ

1.あいさつ

豊岡の教育のめざす姿

▲シナリオの相談

▲練習

▲発表

「非認知能力」の向上のための演劇ワークショップより

２．小中学校のあり方についての検討

なぜ検討が必要なの？

少子化が進み、同級生が極端に少ない学年や複式学級が増えています

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
【学習面】	● 児童・生徒の一人ひとりに目がゆきとどきやすく、きめ細かな対応がしやすい。 ● 学校行事や部活動等で、児童・生徒一人ひとりに個別の活動機会が与えられやすい。	■ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ■ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団活動に制約が生じやすい。 ■ 部活動の部員の確保が難しい。 ➢ 部活動の数が減り、選択肢が少ない。 ➢ 試合に出られない。
【生活面】	● 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ● 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	■ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ■ 集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある。

なぜ検討が必要なの？

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
【学校運営】	● 全教職員間の意思疎通が図りやすく、連携が密になりやすい。 ● 学校が一体となって活動しやすい。 ● 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	■ 教員の配置人数は学級数で決まるため… ➢ 一人当たりの教員の負担が大きくなる ➢ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい（専門的な学習にも影響） ■ 複式学級で授業を進めるためには特別な指導技術が必要。 ■ 運動会や文化祭等の運営に課題が生じる。
【その他】	● 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	■ PTA活動等、保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

小規模校の良さもあるが、学校規模が小さくなりすぎると課題の方が大きくなる

なぜ検討が必要なの？

保護者の不安

◆進学後や社会に出た時など、大勢の中で馴染めるか不安。
◆同級生がいない。
◆複式学級が不安。

⇒　他の学校区へ転居する事例も

昨年の教育懇談会では、「地区では統合の話を出しにくい。市主導で方針を示してもらえないか。」 という意見も。

市教育委員会では、どのような検討をしているの？

「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会」を設置して審議中

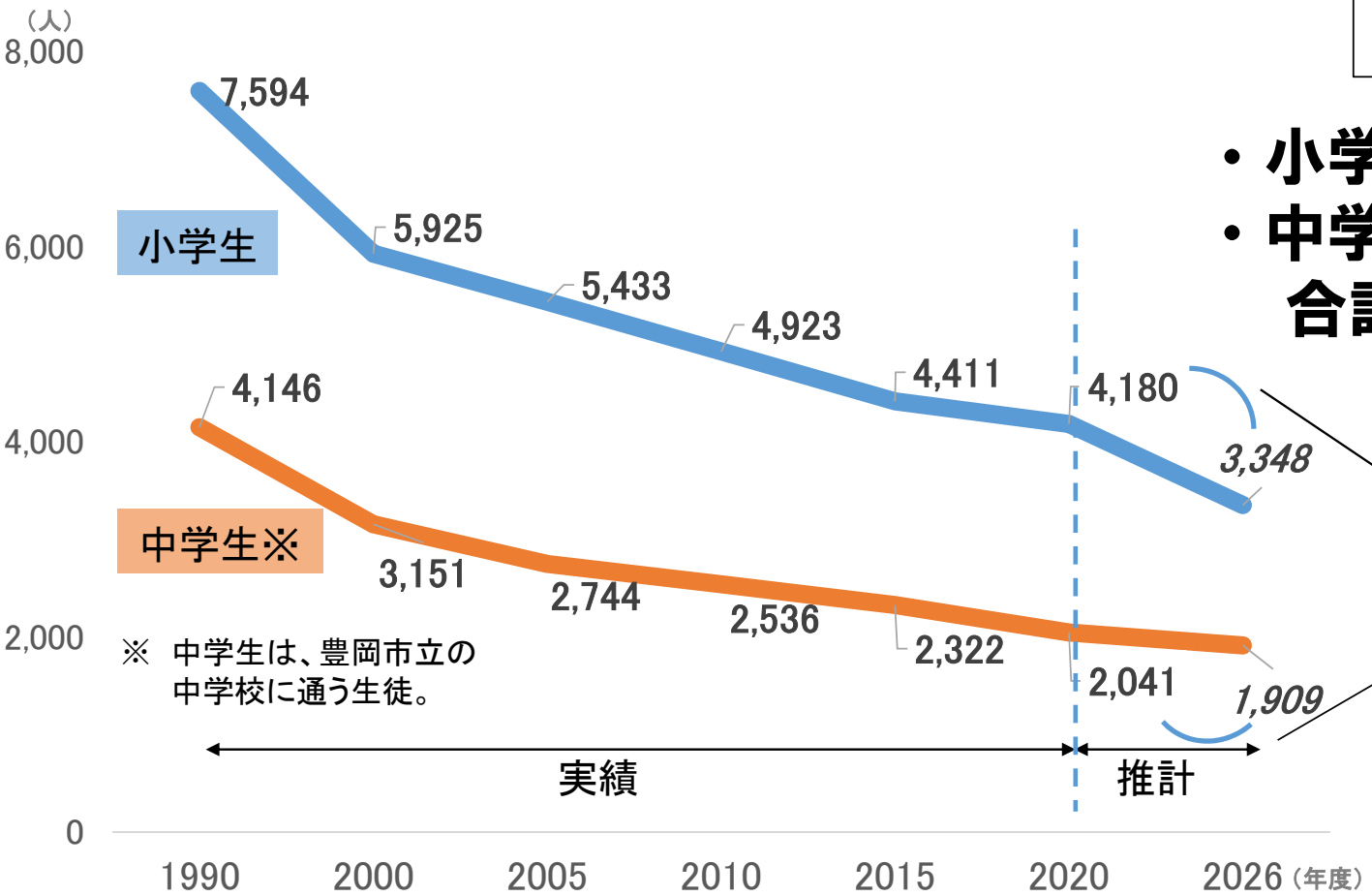
→ 2021年2月答申予定

小中学校の再編を視野にいれた検討

３．児童生徒数の推移と複式学級

3. 児童生徒数の推移と複式学級

児童・生徒数の推移



1990年⇒2020年

- 小学生　3,414人 減
- 中学生　2,105人 減

合計　5,519人 減

約1/2

さらに
2020年⇒2026年
６年間だけで
【小＋中】
964人 減（見込み）

兵庫県教育委員会　統計資料（各年5月1日現在）
豊岡市住民基本台帳（2020年4月8日現在）　より

○公立学校の学級編制（複式学級）基準（兵庫県の基準）

項　　目	小　　学　　校	
単式学級	35人 （第1学年）	40人 （第2～6学年） ※ただし、第2～4学年は弾力的取り扱いにより35人学級編成
複式学級	14人 ※2つの学年で （第1学年を含む場合は、8人）	

豊岡地域の各学校別学年人数と今後の見込み

兵庫県教育委員会　統計資料（2020年5月1日現在）
豊岡市住民基本台帳（2020年4月8日現在）

豊岡地域

豊岡地域(港除く)の各学校別学年人数と今後の見込み

2020年度

単位:人

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童数合計	複式学級数	クラス数	備考
豊岡	60	59	59	65	78	63	384		12	
八条	43	57	53	61	63	61	338		12	
三江	17	24	24	32	24	27	148		6	
田鶴野	19	27	29	28	31	25	159		6	
五荘	124	118	105	141	128	107	723		22	
新田	36	35	31	32	27	27	188		7	
中筋	16	14	19	14	10	20	93		6	
奈佐	6	1	5	9	6	8	35	2	4	1-2,3-4複式　5-6複式解消
神美	10	22	23	24	24	22	125		6	
合計	331	357	348	406	391	360	2,193			

豊岡地域

豊岡地域(港除く)の各学校別学年人数と今後の見込み

6年後(2026年度)

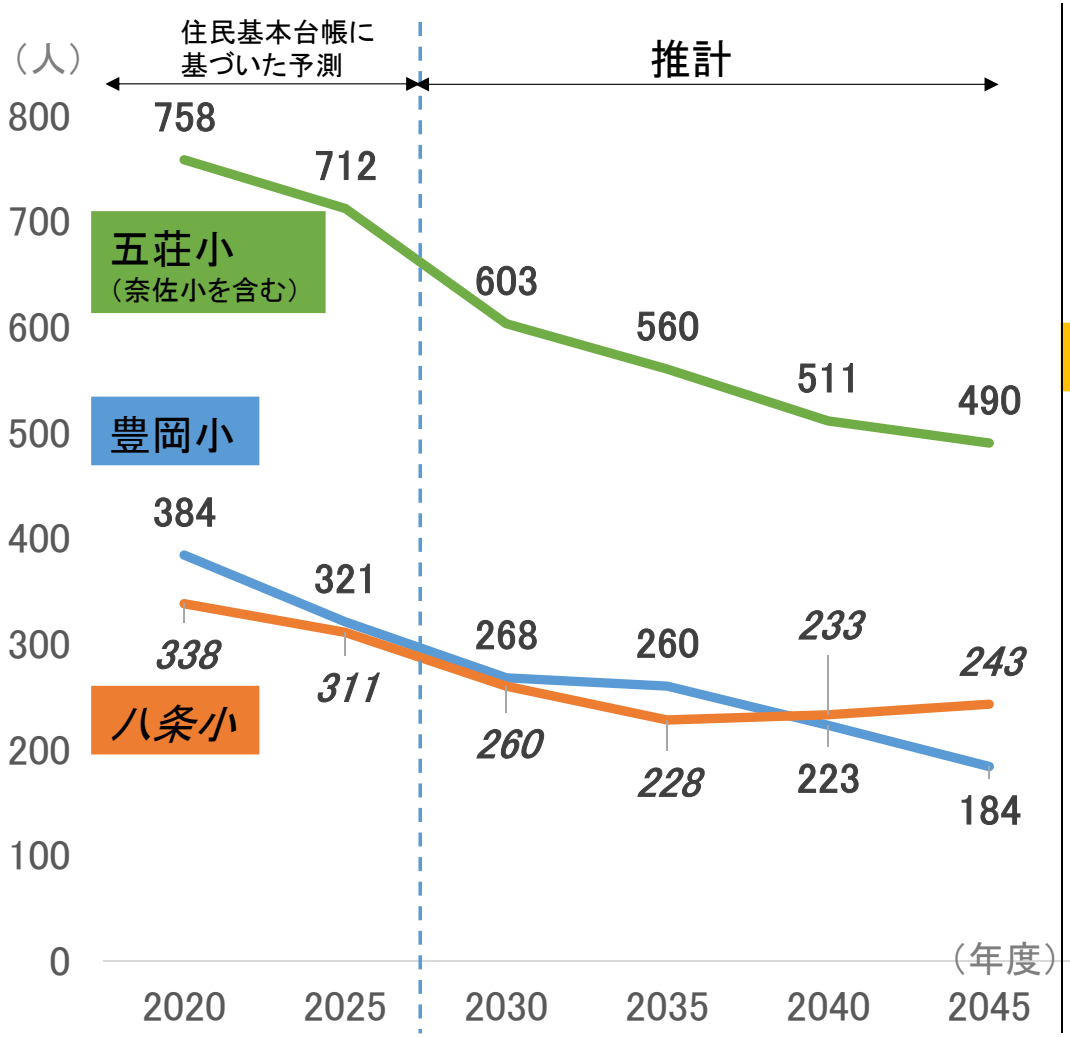
単位:人

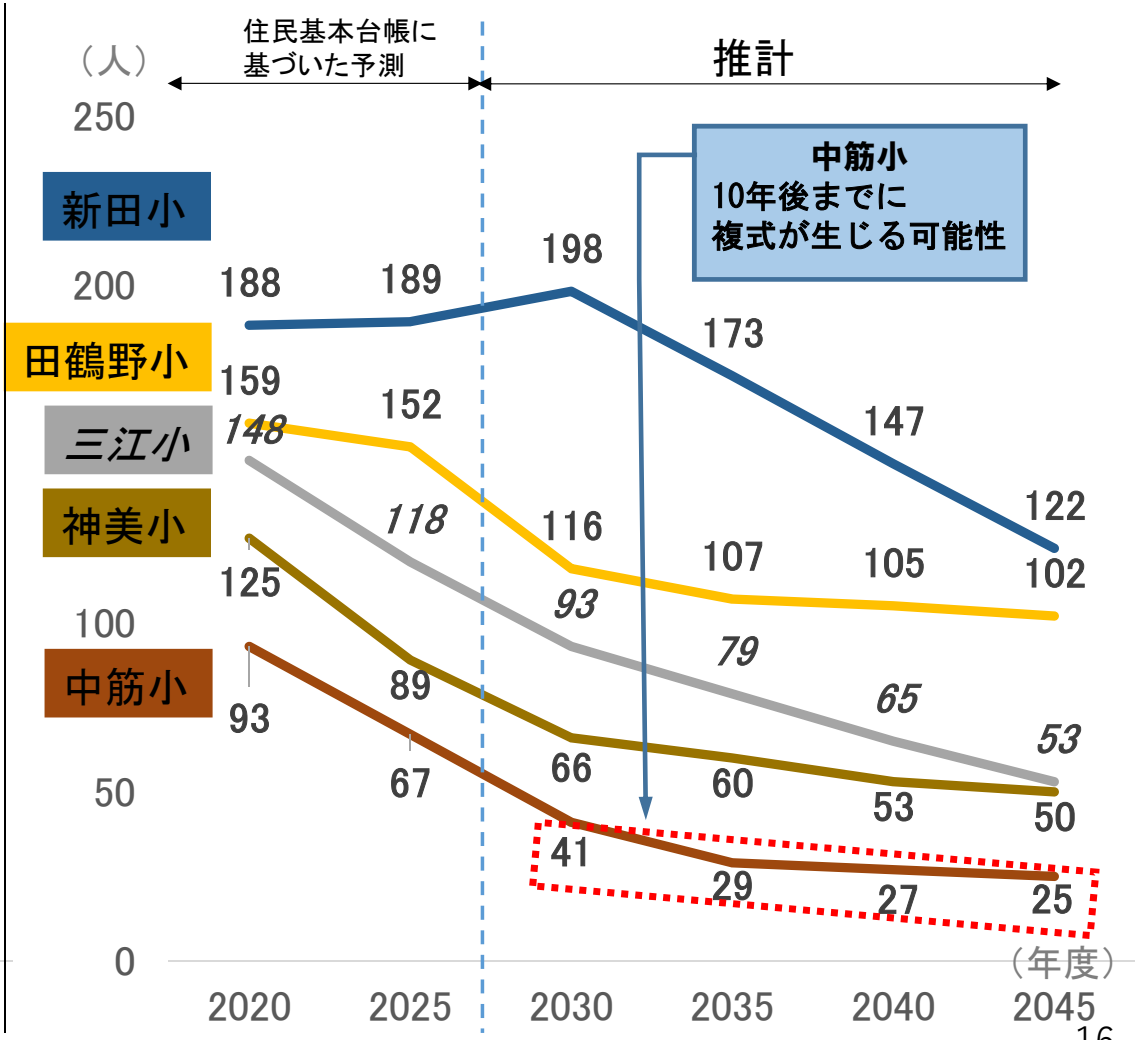
小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童数合計	複式学級数	クラス数	備考
豊岡	41	49	38	60	51	63	302		12	
八条	56	42	58	59	51	58	324		12	
三江	20	22	20	20	18	21	121		6	
田鶴野	29	29	30	24	27	23	162		6	
五荘	88	97	120	108	136	121	670		22	2021年度 奈佐小と統合
新田	35	28	35	28	35	27	188		6	
中筋	15	11	10	13	7	10	66		6	
奈佐	−								−	
神美	9	9	15	18	15	22	88		6	
合計	293	287	326	330	340	345	1,921			

3. 児童生徒数の推移と複式学級

豊岡地域

児童数の今後の見込み（2020年度推計）

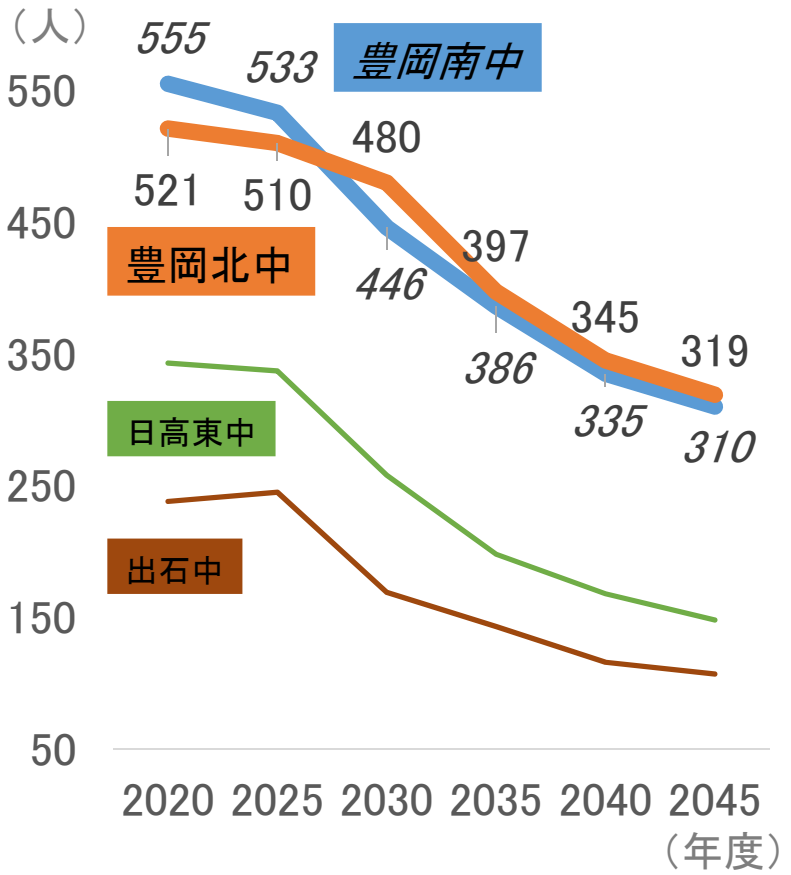




豊岡地域

中学校別生徒数の今後の見込み（2020年度基準）

学校名	中1	中2	中3	生徒数合計	学級数
豊岡南中	197	182	176	555	15
豊岡北中	164	162	195	521	13
港中	19	16	27	62	3
城崎中	23	25	18	66	3
竹野中	24	29	18	71	3
日高東中	105	130	108	343	10
日高西中	28	37	37	102	3
出石中	77	92	69	238	7
但東中	25	31	27	83	3
合計	662	704	675	2,041	60



４．小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）（現時点での検討案）

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方（素案）

1　適正規模

⑴　理想とする姿

ア　小学校　12～18学級（１学年あたり　２～３学級）

イ　中学校　 9～18学級（１学年あたり　３～６学級）

（各学年でクラス替えができる複数学級を確保）

※文部科学省の『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』で示された目安

⑵　最低限確保したい学校規模（下限の目安）

ア　小学校　全校児童120人程度以上（各学年20人程度以上）

イ　中学校　全校生徒 60人程度以上（各学年20人程度以上）

（単学級でも複数のグループが編成できる人数を確保するための必要人数を確保）

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方（素案）

2　適正配置

⑴　通学時間

小・中学校とも概ね１時間以内とする。　※遠距離では、交通手段の確保が前提

⑵　再編の枠組み

地理的要因・社会的背景を考慮した学校配置とするため、

ア　小学校　原則、同一中学校区内とする。

イ　中学校　原則、旧市町域内とする。（ただし、港・城崎は除く）

また、旧市町域内に１校は存続させる。

豊岡市の学校適正規模･適正配置の考え方（素案）

３　再編の進め方

⑴　複式学級の解消を最優先

対 象

ア　既に複式学級がある学校

イ　近い将来、複式学級が生じる学校（10年程度）

⑵　将来を見据えた 検討 を開始

対 象

ア　小学校　全校児童120人程度

イ　中学校　全校生徒 60人程度

} 下回る

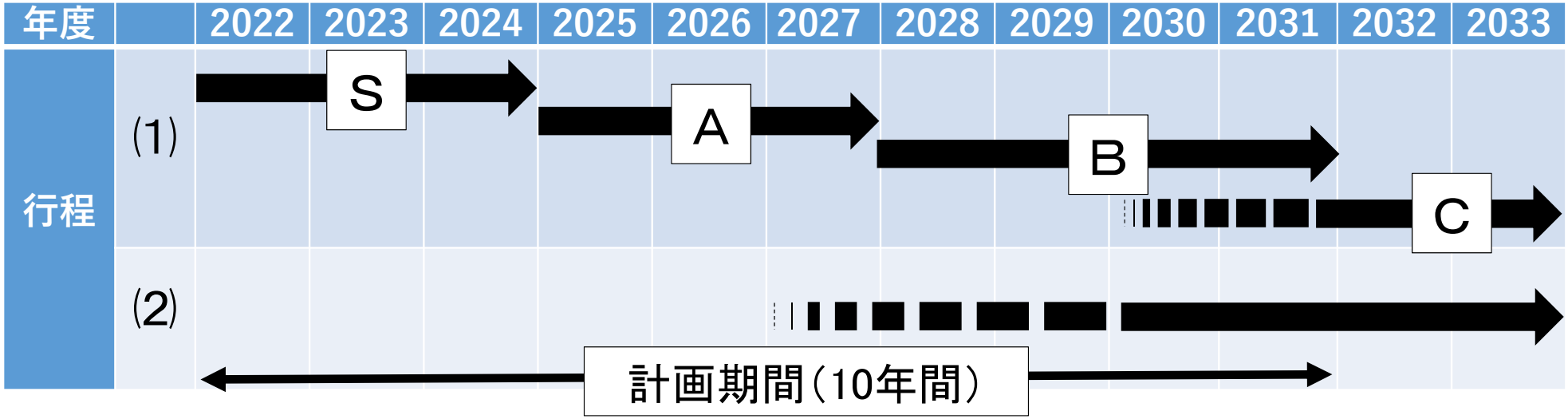
⇒　地域との調整を始める（統合検討委員会の設置等）

豊岡市の学校適正規模･適正配置の考え方（素案）

３　再編の進め方

(1)　複式学級の解消
(2)　将来を見据えた検討

◇年次計画（イメージ）



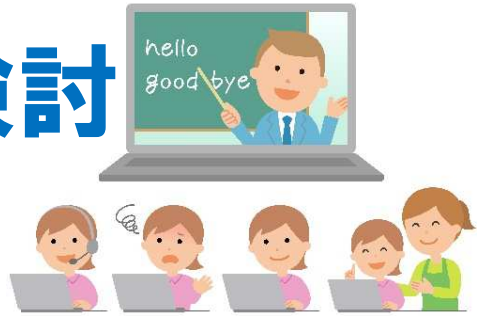
S：最優先　　B：５～10年後
A：やや急ぐ　　C：10年以降（計画期間内に協議を開始）

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方（素案）

４　これ以上再編が困難な場合の教育課題の軽減

地理的要因等により、再編を進めることが難しい場合、多様な考えに触れるための対応策として次の項目について検討を進める。

ICTの活用による学校間交流や
オンライン授業の検討



再編の枠組み案
（現時点での検討案）

豊岡地域の場合・・・

検討対象校	枠組（案）	優先度
中筋小学校	①　中筋小＋神美小	B
	②　中筋小＋新田小	

S：最優先　　B：5～10年後
A：やや急ぐ　C：10年以降（計画期間内に協議を開始）

市全域での検討は・・・

検討対象校	優先度
中竹野小学校	S
竹野南小学校	S
八代小学校	S
静修小学校	S
寺坂小学校	S
高橋小学校	S

検討対象校	優先度
小野小学校	A
合橋小学校	A
資母小学校	A
中筋小学校	B
港中学校	B
城崎中学校	B

検討対象校	優先度
港小学校（仮称）（港東小＋港西小）	C
三方小学校	C
清滝小学校	C
小坂小学校	C
日高西中学校	C

S：最優先　　B：5～10年後
A：やや急ぐ　C：10年以降（計画期間内に協議を開始）

豊岡地域

①中筋小学校と神美小学校の場合　将来の複式学級を解消　優先度B

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
中筋小	93	6	41	5
神美小	125	6	66	6
合　計	218	—	107	—

学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	17	1
2年	18	1
3年	18	1
4年	19	1
5年	19	1
6年	16	1
合計	107	6

枠組み（案）の理由

〇今後予測される複式学級の解消を図る。
〇豊岡南中学校区内の南部での隣接校である。
〇神美小学校としても、ある程度の集団を確保する必要がある。

課題

〇統合しても各学年が単学級であり、10年後をみると20人程度規模の学級人数の確保が難しい。

豊岡地域

①中筋小学校と神美小学校の場合

学校間距離
　約5.4km
学校間移動時間（バス）
　約16分　（20km/h）

最も遠い集落からの距離
　市谷　⇒ 神美小 8.6 km
　奥野　⇒ 中筋小 9.6 km

豊岡地域

②中筋小学校と新田小学校の場合　将来の複式学級を解消　優先度B

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
中筋小	93	6	41	5
新田小	188	7	198	6
合　計	281	—	239	—

学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	39	2
2年	40	2
3年	39	2
4年	40	2
5年	46	2
6年	35	1
合計	239	11

枠組み（案）の理由

○今後予測される複式学級の解消を図る。
○豊岡南中学校区内の南部での隣接校である。
○10年後の姿において、ほとんどの学年で複数クラスとすることができる。

豊岡地域

②中筋小学校と新田小学校の場合

学校間距離
　約4.4km
学校間移動時間(バス)
　約13分　(20km/h)

最も遠い集落からの距離
　市谷　　⇒ 新田小 7.6 km
　百合地　⇒ 中筋小 6.4 km

今後のスケジュール

※太文字は地域住民の意見を聞く場

時　期	内　　容
2020年9月～10月	保護者、地域との**意見交換会**
2021年２月	審議会から答申（予定）
2021年４月～	答申内容の**地域説明会**
2021年９月頃	計画（案）の**地域説明会**、**パブリックコメント**
2021年11月末頃	計画策定・公表
2021年12月～	統合に向けた**校区別説明会**
2022年4月	計画スタート、**統合検討委員会の設置調整**
2023年4月	学校統合（最も早い場合）

（参考）地域独自の動き①

奈佐小学校　児童数　35人　（2年生児童は1名）

2019年12月に要望書が提出された（奈佐区、奈佐小PTA）

2021年4月に五荘小学校と統合予定

港東小学校・港西小学校　港東小児童数　50人

港西小児童数　42人

2020年2月に要望書が提出された（港地区区長会、港3校1園PTA）

2021年4月に統合し、港小学校（仮称）となる予定（校舎は港東小学校を使用）

※児童数は2020.5.1 時点

（参考）地域独自の動き②

中竹野小学校　児童数　23人　（2年生児童は0名）

2020年9月に要望書が提出された

（中竹野地区区長協議会長、中竹野小学校PTA会長、竹野認定こども園中竹野地区保護者代表から）

2022年４月に竹野小学校と統合予定

※児童数は2020.5.1 時点

５．保護者の意見

（保護者向け意見交換会から）

小中学校のあり方意見交換会まとめ（保護者向け・豊岡会場）

意見交換会での意見・質問とその回答（主なもの）

≪通学時間≫

○通学時間は１時間以内でとのことだが、具体的に１時間というと、どこからどこまでか。バス通学で１時間は子どもたちの負担になるのではないか。

⇒　現在でも１時間近くかけて通っている地区もある。旧市町を越えなければ、概ね１時間程度で通学することは可能と考えている。その場合であっても、極力、負担が軽減できるように検討したい。

≪学校再編≫

○中筋小・新田小・神美小の３校同時の統合という選択肢はないのか。

⇒　３校同時の場合、対象の校区住民の合意に時間が必要であるが、中筋小に複式学級が生じるのは５年～10 年後と少し先なので、そのような案も校区の皆さんと検討していくことが可能であれば課題としたい。

○中筋小の統合先として、八条小との統合というのは可能なのか。多い人数のところに行く方が、メリットがあるのではないかと思う。

⇒　距離的にも可能と考える。地域的な結びつきが八条との方が強いという意見などあれば、それも含めて検討したいので、提案いただきたい。

○中筋小は人数が少ないので、学校を残す場合は、神美小又は新田小になるのか。

⇒　現時点ではどこの学校に配置するという具体案はお示しすることは控えさせていただきたい。基本的には、建物の古さや一番遠い地区からの距離、通学バスが必要な場合は人数が多すぎると限界があるなど、いろいろなことを複合的に考える必要がある。

○複数の学校を統合するとした場合、一人の子どもが、６年間の間に２回、３回と統合するようなことは避けるようにしていただきたい。

⇒　統合は、保護者にとっても子どもたちにとっても大きな負担が生じることは承知しており、課題として時期等を見ながら検討していきたい。また、一度再編すると、もう再編はないと思われる方もあると思う。丁寧に説明をしていきたい。

≪その他≫

○親の声と地域の声を聞くとのことだが、地域の声として「地域から学校を無くしたくない」という声が出てくると思う。そこをどこまで聞くのか。

⇒　この場でいただいた意見は、保護者の想いとして地域に

伝え、保護者の方と地域の方のギャップを埋める調整をしたい。『保護者はこう想っている。学校の主役は子どもである。今後地域を守る子どもたちのために何とか考えて欲しい。』というお願いをしたいと考えている。

○お母さん方からは、例えばいじめがあった場合など、人間関係を考えると、クラス替えができないと不安であると聞いている。校区外で通いたいという世帯が増えるのではないか。

⇒　現時点でもクラス替えができない学校・学級がある。担任が一人一人のことをよく見て、もし心配があれば子どもの声を聞き、保護者の方と連絡を取って話し合いをしながらいじめの解消と再発防止に努めている。
もし仮にいじめがあって学校に行きにくい状況となれば、一定の基準はあるが、校区外就学も検討することができる。
また、クラス替えができなくてもある程度の人数がいて、相談できる友達、仲の良い友達がいるなど、多様な関係性が築けるような環境を確保する必要があると考えている。

アンケートでの意見（主なもの）

- １クラスの人数が多いと、先生が一人一人の生徒をしっかりと見られないとのではないか。20 人程度という規模はいいと思う。
- 必要な統合はやむを得ないと感じる。ただし、丁寧な説明が必要。
- 素案について、目先の課題への対応、現実的なものと感じた。少子化の問題はもっと先に大きな課題が見えているので、長期的な適正配置に対する案も同時に検討が必要だと感じた。
- 複式学級の解消を最優先とする考え方は変更して欲しい。もっとより将来を見据えた取組をしてほしい。
- 慎重に進める必要はあるが、３年かかるとなると、仮に小学２年生から動き出したとして、卒業近くの再編となる。保護者にとってはそれならこのままでとなりやすいのではないか。市が主となって動くことがやはり必要だと思う。
- 複式学級になるまでは存続させて欲しい。
- １０年後にクラス替えのできる規模を確保してほしい。
- 中筋小と神美小を統合しても、数年後にまた同じ状態になるのではないか。もっと大きな枠で検討するべきではないか。